

ママをやめても いいですか!?



私たちの
超「ハッピー」
子育て

ドタバタで
プンプンと
ハラハラな

休暇届

90万人を動員した
映画『うまれる』シリーズ
監督

企画・監督・撮影 **豪田トモ** ナレーション **大泉洋**



プロデューサー: 牛山朋子 タイトルデザイン: bookwall 製作/配給: インディゴ・フィルムズ 宣伝: MaVie ©2020 IndigoFilms



459LABO



映倫
EININ
31278-A



ママをやめたい
いいですか!?

子育てに奮闘するすべてのママへ

大丈夫あなたはひとりじゃない

笑って泣ける共感度2000%の
子育てエンターテインメント映画
STORY

大切に愛おしい。だからこそ、ときどき苦しい。
産後うつを乗り越えて、新たな命の誕生を迎えるママ
母の産後うつによる自死と、その傷に向き合うママ
我が子を抱かしめることができないママ…
子育てに奮闘する家族は、
それぞれどんな答えを見つけ、歩んでゆくのでしょうか。



思わず手をわいて笑って
声を出して泣いて
うんうんと共感しちゃ!

一度でも「ママやめ」したいと
思ったことのあるママ



※インディゴ
フィルムズ調べ
(回答数391人)



「ママやめ」が生まれた
子育てであらあ!

「マーフィーの法則」ならぬ
『ママーフィーの法則』

- ☑ 一生懸命作ったご飯は某社の
ふりかけに奪取する
- ☑ パバがやる気はなかった時に限って、
いつも以上にママを求める
- ☑ やっと寝てくれた赤ちゃんを
ベッドに置いた時、抱っこ時間は
比例して素早く目を覚ます

あなたの
ママーフィーの法則
募集中



ママは24時間大忙し! それでも必死に家事や育児に奮闘しているママからは、大切な命を守るプレッシャーや、休みない中で、ひとり苦悩する姿なんて想像できないかもしれません。「子どもは可愛いんです。大事なんです。愛おしいんです。…でも離れたいんです」本作は、人知れず子育てに悩み、つまずき、それでも子供を愛し、前を向くママとその家族の歩みを、涙と笑いを交えながら綴った物語です。「ママの子育て」は、映画にするほどでもない「ありきたりな日常」に見えるもの。しかし、そこにはかけがえのない数々の感動と奇跡、そして確かな共感に満ち溢れていました。そう、この映画は「ある家庭の物語」ではなく、育児に奮闘する「あなた」に贈る物語なのです。

本当に「やめたい」と思っているママはいません。ほんのちょっとでいいから、休みたいだけ。自分の時間が欲しいだけ。「ありがとう」の言葉が聞きたいだけ。それは断じて、ワガママなんかじゃありません! 時々「ママやめ」をして心の充電をすることで、さらにさらに、子育てが輝かしいものになり、笑顔の子どもたちが増えるのです。ママという役割をやめることはできません。だからこそ、最高にハッピーな子育てをするためにママや周りの人は、どうすればいいのか?一緒に考えていきましょう!

監督 豪田トモ

映画を観たとき、一人の父親としてとても感動しました。本当にお母さんたちは頑張っている! 完璧なお母さんになる必要はありません。少しでも楽しい子育てができますように。

—大泉洋

大泉洋さんの
ナレーションをチョイ見せ!
予告編もこちらから



令和4年 9月3日(土) ■開場13時00分 ■開演13時30分

■会場 みと文化交流プラザ (住所:水戸市五軒町1-2-12)

■参加費 無料

■主催 水戸女性会議 ■共催 水戸市男女平等参画課

【参加申込み先】水戸市男女平等参画課 ☎029(226)3161